



鈴木まもる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

保育所待機児童の解消へ面積要件の緩和を

市川市特集 12月県議会一般質問



12月県議会一般質問を行う鈴木衛県議

面積要件の緩和を

鈴木衛県議(2期)は市川市長であった祖父、忠兵衛氏の業績を引き継ぎ、文化都市・市川市の発展・充実に全精力を傾けています。明日を担う子ども達の健やかな成長を願う鈴木衛県議ですが、一般質問に立った12月県議会では保育所に入りたくても入れない都市部の児童のために、保育所の面積要件緩和を県に提案しました。このほか道路問題、東京湾護岸の安全対策、三番瀬再生などについて県の施策を質しました。質疑の様を特集します。

鈴木議員 国は全国どこで保育を受けても、一定の水準が保たれるよう、児童の年齢に応じた1人あたりの居室の床面積、設備関係ならびに職員的人的配置など必要な最低限の基準を定めている。千葉県も同様の基準を適用しているが、児童1人当たりの居室の床面積は、国の最低基準を上回るものになっている。

健康福祉部長 保育所最低基準の条例化につきましても、居室面積などの基準の設定が大きな課題と考えています。第1次一括法によりまして、条例は平成24年4月1日の施行が原則とされておりますが、1年間の経過措置期間がございます。この期間を有効に活用して、待機児童の解消と保育環境の確保という両面の課題に対処するため、市町村

その設備及び運営を向上させなければならぬ」とされています。この規定を受け、県では保育所児童のよりよい生活環境を確保するため、保育室などの面積につきましても、国の基準を上回る県独自の基準を定めているところでございます。鈴木議員 今後、都市部を中心に待機児童数が増えることが予想されるが、保育園を新設するには莫大な資金を要し、地価の高い都市部では用地の取得も困難を極める。県指針の居室の床面積を段階的に緩和することで、既存施設で多数の待機児童の解消を進めることができると思うがどうか。また今後の検討についてはどうか。健康福祉部長 保育所最低基準の条例化につきましても、居室面積などの基準の設定が大きな課題と考えています。

は、最低限確保すべき基準であり、「児童福祉施設は、この基準を超えて、常にその設備及び運営を向上させなければならぬ」とされています。この規定を受け、県では保育所児童のよりよい生活環境を確保するため、保育室などの面積につきましても、国の基準を上回る県独自の基準を定めているところでございます。

健康福祉部長 地域により保育の実情は異なることから、条例化に当たっては、県内各市町村の意向や待機児童などの状況を十分に確認しながら、児童にとって望ましい保育環境の確保に向けて、慎重に検討していきたいと考えております。

鈴木議員 厚生労働省 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長通知、厚児保発0217号第1号最終改正保育所への入園円滑化対策についての通知において、「定員を超えている状況が恒常的にわたる場合は、定員の見直しなどに積極的に取り組むこと(連続する過去2年度間常に定員を超えており、かつ、各年度の年間平均在所率が月平均120%以上の場合)の場合の通知が出

その対応につきましては、実施機関である市町村が、定員増や施設整備により、計画的かつ速やかに待機児童対策を進めるものと考えております。県では、待機児童の解消を図るために、国の安心子ども基金に加えまして、上乗せの県単補助事業などを実施し、市町村において保育所の緊急整備を積極的に推進しているところでございます。

鈴木まもる県議プロフィール

- 略歴■
- 昭和26年 市川市若宮生まれ
- 私立市川高校卒業
- 専修大学文学部中退
- 市川市議会議員当選(4期)
- 市川市議会議長
- 千葉県議会議員当選(2期)
- 現職■
- 県議会 総務防災常任委員会副委員長
- 千葉県 水道事業運営審議会委員
- 市川交通安全協会会長
- 市川市サッカー協会会長
- 市川市少年野球リーグ会長
- 市川商工会議所参与
- 市川市観光協会副会長
- 市川食品衛生協会顧問
- 市川市商店会連合会相談役

都市づくり、地域づくりのご意見、ご提言をお寄せください。

鈴木まもる県議事務所 〒272-0021 市川市八幡3-29-20 秋葉ビル3F
 TEL047-333-6000 FAX047-322-3232
 鈴木まもるホームページ = <http://www.suzukimamoru.com>

待機児童受け入れへ「保育特区」申請を提案

受け入れる弾力的な運営も国は認めているところがございます。

現在県では、第1次一括法の制定を受けまして、保育所最低基準の条例化の作業を進めております。

保育所の定員や児童の受け入れにつきましては、「特区」としてではなく、現在進めております県の条例化の過程のなかで検討すべき課題であると考えています。

再質問 鈴木議員 国は、保育園・幼稚園施設の共有化、幼児教育と保育の一本化を図る子ども・子育て新システムのスケジュールを示しているが、その実現性と待機児童を解消するための条例化にどのようにつながるかをうかがいたい。

健康福祉部長 子ども・子育て新システムの大きな目的は、幼保一元化や多様な事業主体の参入による保育の量的拡大にあると思われませんが、その実現性については、現時点で「社会保障と税の一体改革」による財源確保が検討されていますが、その見通しがなかなか不明な面があり、不確定な要素も多いことから、国の動きを注視し、その動向を踏まえながら、条例化につ

再質問 鈴木議員 待機児童問題が永遠に続くことは考えられないので、5年、10年と時限措置として、定員変更は伴わず、国の最低基準を満たす範囲で児童の受け入れを可能とする「特区」を千葉県として全国初の申請する考えはないか。

健康福祉部長 待機児童解消対策として、2年度間に渡り定員を超えて児童を

いては、慎重に検討していきたいと考えております。

平成23年度の県内待機児童状況は1位が千葉市で682人、2位が市川市330人、3位は船橋市の268人、4位は柏市205人

などとなっている。私の住む市川市では公立22園、社会福祉法人経営の保育園40園の計62園があり、1園あたり5人程度受け入れられれば300人強

の待機児童の解消につながる。厚生労働省令で定める「最低基準を標準と定める特別措置の対象となる地域の規程」について千葉県で

は市川市がその対象になっている。現在の子育て世代の人たちの需要に 대응するための県の決断は急務であると思うのでよろしくお願ひしたい。

外環道 優先整備を要望



議場の自席で再質問する鈴木衛県議

線塚下分国道計画都市市川遅れる

通学児童らの安全対策急務

鈴木議員 事業化が遅れている市川都市計画道路国分下貝塚線の整備についてうかがう。同道路の現状は幅員8.5mの2車線道路であり、道路沿いに国分小学校が、十分な歩行者空間が確保されておらず、通学児童や歩行者などの安全対策の必要性から早期の整備改善が求められている。

また、この道路が接続する外環道路が供用されると交通量が増加し、児童の危険増加が危惧されるが、県はどのように考えているのか。また、市川都市計画道路国分下貝塚線の事業化に向けた取組状況及び整備についての考え方はどうか。

知事 国分下貝塚線は、首都圏道路ネットワークの一翼を担い、現在、着実に整備が進められている。外かく環状道路の(仮称)市川北インターチェンジに接続する延長1.7キロメートルの都市計画道路であり、JR市川駅などへのアクセス道路にもなっております。

本路線は、幅員が狭く、朝夕の通勤・通学時間帯には路線バスを含む車両や歩行者・自転車利用者が集中することから、安全な交通環境を確保する必要があり、認識しております。

このため県では事業化に向け、これまでに交通量調査などを実施してきたところでございます。現在、歩道幅員を含めた道路構造について、地元市川市と協議を行っております。今後は関係機関との協議



市川都市計画道路国分下貝塚線を視察する鈴木衛県議

を整え、早期に事業着手が図られるよう、必要な手続きを進めてまいります。

再質問 鈴木議員 私は全区間を事業化することが最善であると考えていますが、事業費や事業期間を考慮すると、外かん道路接続部から曾谷公民館付近までの区間を優先的に整備することが現実的であると考えているが、県の見解はどうか。

県土整備部長 県としても、区間を限定して現状を早期に改善していく必要があると認識しております。

このことから、特に交通量が多く、小学校の通学路にもなっている外かん接続部から曾谷橋交差点までの

概ね500mの区間を優先的に考えてまいります。

塩浜2丁目護岸 干潟化で安全確保を

鈴木議員 新たな三番瀬再生事業計画に示されている塩浜2丁目護岸前面の干潟化の進め方、今後の具体的なスケジュールはどうなっているのか。

環境生活部長 塩浜2丁目護岸前面の干潟化の進め方、今後の具体的なスケジュールはどのようなものかと質問ですが、県では、塩浜2丁目護岸前面において、干潟の再生に向けた実証試験を今年度も実施しているところであり、4回の調査予定のうち、2回が実施済みです。

市川市から要望がある塩浜2丁目護岸前面における干潟の再生については、この実証試験の結果や護岸改修工事の進捗状況を見ながら、事業主体や事業の進め方などについて、引き続き市川市と協議していきたいと考えております。

再質問 鈴木議員 護岸の安全性を確保し、安んじて海に触れ合える海浜とするためには、干潟化を実現することが最も有効であると考えているがどうか。

環境生活部長 干潟化は、市民が親しめる海辺とするための一つの方法と考えております。実施に向けて引き続き市川市と協議をしてまいります。

市川市特集 12月県議会一般質問

鈴木まもるの県議

生活から暮らしまで